

特集 1 F 事故の教訓と課題 I

2 福島第一原子力発電所事故 12 年を迎え
— 今なすべきこと

新井史朗

3 原発事故後の「勝利」を語れ

石井孝明

4 現世代の責任と伝承

上坂 充

5 SNS 時代の科学的情報発信体制に
ついて考える

宇野賀津子

6 複合災害からの復興と
イノベーションの役割

小沢喜仁

7 Nobody was right
～福島第一原子力発電所事故を経て

越智小枝

8 議論の輪を広げ将来へ繋いでいく
ために

片岡春雄

9 原子力学会の皆様へ

河合弘之

10 防災の観点から必要な原子力発電所
の定期的な公的安全審査

河田恵昭

11 原子力のイメージと未来創造

岸田一隆

12 認知バイアスを回避するガバナンス
強化の必要性

久郷明秀

13 将来世代に責任を

原子力資料情報室

14 モノカルチャーのリスク

小宮山涼一

15 原子力時代の終焉

佐々木寛

16 チャレンジと成長

鈴木光司

17 レベル 3 PRA の薦め

田中治邦

18 原子力を畏れ、事故を忘れず、
信頼を回復

千野境子

19 原子力の今後について正面から
対峙すべき時

寺澤達也

20 信頼される熟議のために

中村多美子

21 東京電力 HD 原子力安全改革の
取り組み

福田俊彦, 伊達宏行

22 世界に誇れる日本の原子力で
あるために今、すべきこと

藤垣裕子

23 事故に学び前進を！

榎本晃章

24 歴史の教訓を学ぶことの難しさと
原発帰政策

松岡俊二

25 持続可能な社会の担い手を育成する
エネルギー環境教育

山野元気

26 エネルギー危機が教える「なすべき」
こと

山本隆三

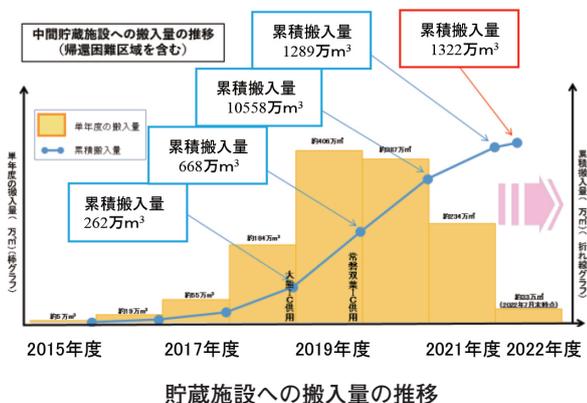
私の主張

27 現実を見つめ直し、責任ある対応を

柳内孝之

36 除去土壌等の中間貯蔵と再生利用等の進捗状況

1F事故以降福島県内の除染作業で発生した除去土壌等の保管・管理状況及び、その最終処分量を低減するための取組について紹介する。 **吉田勝利**



解説シリーズ (技術継承私塾) 3-3 原子炉圧力容器の構造健全性

45 中性照射脆化のメカニズムと予測

国内脆化予測法 JEAC4201 のベースとなっているメカニズムと予測法について述べる。

曾根田直樹

報告

49 核兵器不拡散条約 (NPT) 第10回運用検討会議について — 主要論点と議論および最終文書が採択されなかった理由 —

昨年の第10回運用検討会議では、ウクライナの原発などの安全確保等に関する文言にロシアが反対し、最終文書案を採択できずに閉会した。

田崎真樹子

60 Column

「自分事」として
Unconscious Bias
戦争と環境
福島県内の施設探訪①

島袋慶子
鈴木早苗
坂東昌子
山口克彦

理事会だより

62 メタバースと倫理

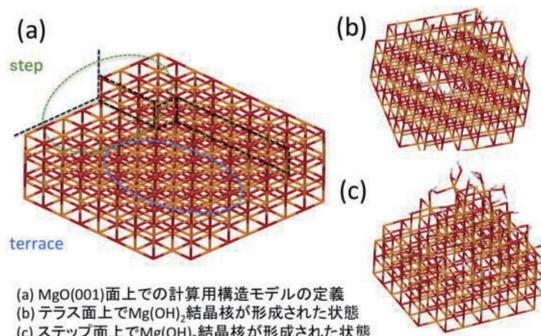
小林容子

解説シリーズ 最先端の研究開発 産業技術総合研究所 (4 / 最終回)

40 計算化学と熱関連材料データを活用した高密度蓄熱材の探索—未利用熱エネルギーの有効活用に向けて

「熱マネジメント」には大きな期待が集まっている。ここでは熱関連材料データベースと高密度蓄熱材の研究を紹介する。

石田豊和



(a) MgO(001)面上での計算用構造モデルの定義
(b) テラス面上でMg(OH)₂結晶核が形成された状態
(c) ステップ面上でMg(OH)₂結晶核が形成された状態

酸化マグネシウム(001)面上での水和反応解析に用いた構造モデル

Short Report

58 SMiRT26 参加報告および SMiRT27 開催計画

第27回原子力構造工学国際会議 (SMiRT27) は2024年3月に横浜で開催される。

安部 浩

Focus 原子力産業界における働き方改革 (2)

53 日立製作所における DEI 推進と働き方改革

イノベーションの鍵を握るのは「多様性」と「公正性」そして「受容」だ。

重栖憲明, 林真里奈

- 30 News
- 57 From Editors
- 63 会報 原子力関係会議案内, 新入会一覧, 英文論文誌 (Vol.60, No.3) 目次, 和文論文誌 (Vol.22, No.1) 目次, 主要会務, 編集後記, 編集関係者一覧
- 66 Vol.65 (2023), No.3 J-STAGE 閲覧 購読者番号・パスワード

学会誌ホームページはこちら
https://www.aesj.net/publish/aesj_atomos



特集 1F事故の教訓と課題 I



*出典：東京電力ホールディングス 撮影者：西澤 丞

東京電力福島第一原子力発電所事故からまもなく、12年目の節目を迎えます。事故からこれまでの間に、原子力をめぐる状況は大きく変わりました。

原子力学会誌ではこの節目を契機とし、1F事故を経て私たちがこれからなすべきことは何か、そして私たちはこの事故の何を次世代に伝えるべきかをテーマに、多角的な視野から分析した特集を企画しています。

原子力利用についてはさまざまな意見があります。このため今号では、原子力利用に批判的な立場の方も含めて、多くの方々に執筆を依頼しました。多様な意見がある中で、私たちはそれをどのように調整し、これからの社会をどのようにデザインしていくかが、問われているのではないかと考えます。(編集委員会)